

いくだみ

県立長崎図書館だより

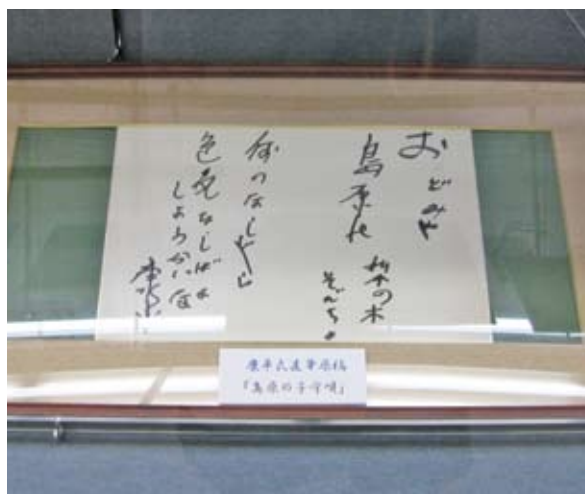
No. 159
2009年8月

長崎ゆかりの文学「宮崎康平展」及び 第1回県立長崎図書館講座

県立長崎図書館では、平成21年度第1回長崎ゆかりの文学企画展として、「島原の子守唄」や「まぼろしの邪馬台国」で有名な宮崎康平氏にスポットを当てた「宮崎康平展」を開催しました。4月25日から7月12日までの期間、宮崎家から借用した貴重資料を一挙公開し、多くの康平ファン、文学ファンの皆様に喜んでいただくことができました。

また、6月22日には、康平氏夫人の宮崎和子氏と前長崎女子短期大学学長の田中正明氏を講師に第1回県立長崎図書館講座「宮崎康平を語る～文学者として辿った道～」を開催しました。

実業家としての手腕と文学者としてのロマンチズムを兼ね備えた多才で個性的な康平氏について「本



質的には詩人であり、内面の同居性や謙虚さを持った文学者」として、その魅力的な人物像が浮き彫りになりました。

100名余の受講者がありましたが、終始和やかな中にも、和子氏の夫人ならではのエピソードや田中氏の鋭い作品分析に基づいた解釈など、充実した講座となりました。受講者からも大変好評で、「とてもいいお話でした。まことにありがとうございました。感銘しました。数々の知見を賜りました。」など温かい感想が数多く寄せられました。



もくじ

- 長崎ゆかりの文学「宮崎康平展」、第1回県立長崎図書館講座P1
- 常設展（郷土資料）、郷土学習セット、文化講演会P2
- 所蔵資料紹介P3
- 「読書郵便集」の取り組みP4
- 新任館長あいさつP5
- 県内公共図書館職員からの声P6
- お知らせ、行事案内P6



2010年は『国民読書年』

郷土資料における常設展の案内

平成21年度の長崎ゆかりの文学常設展では、第1回、第2回の県立長崎図書館講座と連動させた「島原・雲仙関連資料」を展示しています。島原や雲仙を舞台とする作品や郷土出身作家の文学作品をはじめ、天草四郎、五足の靴に関する資料など豊かな文学風土の一端を紹介しています。



今年度の郷土学習セット（互助文庫）の紹介

～今回のテーマは「坂本龍馬」～

来年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」に因み、坂本龍馬や龍馬を取り巻く人々、幕末の歴史など、子どもから大人まで楽しめる本を取り揃えました。ぜひ、あなたの知らない龍馬にで会ってみませんか？

龍馬関連の本 ※抜粋

・「龍馬の長崎」	(本田貞勝／著 長崎文献社)
・「クロニクル坂本龍馬の33年」	(菊池明／著 新人物往来社)
・「あやつられた龍馬」	(加治将一／著 祥伝社)
・「龍馬の時代」	(木村幸比古／著 淡交社)
・「坂本龍馬の妻お龍」	(鈴木かほる／著 新人物往来社)
・「龍馬を斬る」	(黒鉄ヒロシ／著 小池書院)
・「坂本龍馬幕末歴史検定公式ガイドテキストブック」	(新人物往来社／編)
・「龍馬の絵本 なかおかはどこぜよ」	(田島征彦／文 ブッキング)
・「岩崎弥太郎（上・下）」	(村上元三／著 学陽書房)



出典 「坂本龍馬幕末歴史検定公式ガイドテキストブック」
(新人物往来社／編)

○詳しい「郷土学習セット」の内容と利用方法については、本館ホームページをご覧ください。

共催事業

平成21年度 長崎県読書グループ連絡協議会文化講演会「竜馬と長崎」



6月8日（月）、本館講堂において長崎歴史文化研究所所長原田博二氏を講師にお迎えし、「竜馬と長崎」と題して文化講演会を開催いたしました。

坂本龍馬の一生とその人物像についてはもちろん、長崎で龍馬に影響を与えた人物や県内の関連遺構についてもご講演いただきましたが、その中でも「龍馬は剣の達人ではなかった。」や「龍馬は剣才より商才のプロだった。」、「市内のあの場所を龍馬は歩いていたかもしれない。」など原田氏の軽妙なお話しに、100名近くの参加者からは時折感嘆の声が上がり、皆さん大変興味深く耳を傾けていました。

講演終了後には会場から「なぜ龍馬は暗殺されたのか。」「もし龍馬が生きていたら、その後どういう人生を送っていたか。」など多数の質問が出され、参加者の坂本龍馬についての興味をさらにかき立てるものとなったようでした。

来年のNHK大河ドラマも『龍馬伝』に決定しており、坂本龍馬の人気の高まる中大好評の内に終了しました。



※表題については講演会当日の演題と同じ表記としています。

国勢調査報告書

現在の日本の人口は、約1億2700万人といわれていますが、この数字はどうやってわかったと思いますか？それは、国勢調査が行われているからです。

国勢調査の始まりと長崎県は意外な関係があります。

国勢調査の礎を築いたのは、杉亨二という長崎県生まれの方です。この方は、文政11（1828）年8月2日に長崎市本籠町で生まれています。明治4（1872）年に正院政表課大主記（現在の総務省統計局長にあたる）を命じられ、ここで近代日本初の総合統計書となる「日本政表」の編成を行っています。一方で日本の近代化のために人口調査などの『統計』の必要性を説き、「日本近代統計の祖」と呼ばれています。勝海舟や清水次郎長とも交流のあった方で、その銅像は県立長崎図書館近くの長崎公園内にあります。（県立長崎図書館とも縁があるようです）

杉亨二は長年国勢調査の実現に尽力してきましたが、国勢調査の始まる前に没しています。しかし、その後の国勢調査は各種行政施策のための基礎資料として様々な分野で活用されるようになりました。

現在の国勢調査は、日本の人口及び世帯の実態を把握することを目的として、調査時に日本に常住しているすべての人について、性別・生まれた年月・仕事の種類などを調べて人口や世帯などについての統計をつくるための最も基本的な調査で5年ごとに行われています。調査は、大正9年から始まり、平成17年に行われた調査は18回目に当たります。

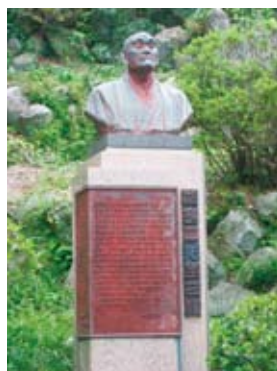
最新の平成17年行われた国勢調査報告書を各巻別に簡単に紹介します。

- 第1巻** 人口について調べることができます。全国・都道府県・市町村各レベルで人口、人口増減、人口密度等が載っています。
- 第2巻** 男女別、年齢、配偶関係、世帯の構成、住居の実態別に人口・世帯数を調べることができます。例えば日本人の20歳の人口は、1,414,652人でその内男は729,003人、女は、685,649人となっています。また、その中で男の1～3月に生まれた人は173,902人となっています。
- 第3巻** 労働力状態、就業者の産業（大分類）、教育別に人口を調べることができます。例えば、65歳以上で農業に従事している日本人の人口は、1,391,126人となっています。
- 第4巻** 就業者の職業（大分類）、世帯の型別に人口・世帯数を調べることができます。例えば、長崎県の父子世帯数は1,155世帯、そのうち子供が1人の世帯は623世帯、子供が2人の世帯数は401世帯となっています。
- 第5巻** 就業者の産業、職業別の人口、産業別の就業時間を調べることができます。例えば、全国の理容師は、230,266人、美容師は461,161人となっています。
- 第6巻** その1～その3
従業地・通学地による人口をまとめてあります。
- 第7巻** 外国人に関する統計をまとめてあります。例えば、国籍別の人口は、韓国・朝鮮が472,711人と最も多くその中で20～24歳の男性は14,816人、女性は17,050人となっています。

この他にも、図書館でしか手にすることができない資料を含めて、図書館にはたくさんの統計に関する資料がありますので、研究や調べ物にぜひご利用ください。

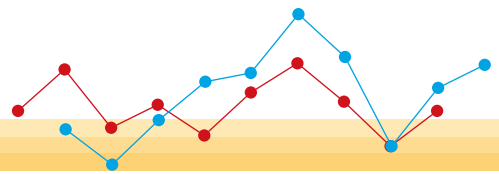


第1回及び最新の国勢調査報告



杉 亨二 銅像
(長崎公園内)

統計でみる県立図書館



県立長崎図書館の現状

平成20年1月、近隣に長崎市立図書館がオープンしました。それまでは、県立図書館が長崎市の図書館の役割も担っていたため、本館の貸出冊数等は前年度の3/4程度まで落ち込みました。

しかしながら、今後は「県内図書館支援」を中心に、豊富な資料収集を通して「協力貸出」と「ネットワークの強化」をさらに充実させ、本県の『基幹図書館』として県民の資料要求や読書活動に貢献します。

年度	年間受入図書数	年度末蔵書冊数	館外貸出	個人貸出	市町貸出	学校等貸出	一括貸出	読書グループ貸出
19	42,101	811,047	559,284	512,815	35,655	954	6,843	3,017
20	44,144	852,025	403,791	356,359	35,135	2,722	6,517	3,058

蔵書冊数：全国平均の約94%で全国19位、九州平均の約110%で九州3位
個人貸出冊数：全国平均の約128%で全国11位、九州平均の約137%で九州2位

読書郵便集の紹介

長崎県教育委員会では、平成21年2月に「すべての子どもがいつでもどこでもみずから読書に親しむ環境づくり」を目指して、『第二次長崎県子ども読書活動推進計画』策定しました。

※参考URL：<http://www.manabi.pref.nagasaki.jp/dokusyo/index.html>



子どもの読書活動推進のための方策 －6つの柱－

- 子どもが読書に親しむ機会の提供と充実
- 子どもの読書環境の整備・充実
- 子どもの読書活動に関わる人材の育成
- 子どもの自主的な読書活動の推進
- 子どもの読書活動に関する理解と関心の促進
- 本県の特성에応じた子どもの読書活動の推進

これを受け、長崎県立長崎図書館も子ども読書活動推進のため、「子ども読書の日（4月23日を「子どもの読書活動の推進に関する法律」により定められています）」や「こども読書週間（4月23日～5月12日）」における各種啓発活動の一端を担うべく、今年3月に『長崎発 読書郵便集 第1号～この感動をあなたへ伝えたい～』を発刊し、各地の子ども読書活動推進イベント等で活用していただいたところです。

（各地から好評のご意見をいただいております、本館のホームページからもご覧になることができます。）

※ホームページアドレス：<http://www.lib.pref.nagasaki.jp/news/index.html>

なお、今年度は県内全域へ拡大・充実を図るため県内公共図書館等と連携し、「長崎発読書郵便集－第2号－」の作成を計画しております。完成の折には、本館及び県内公共図書館ホームページや本紙でもお知らせしたいと考えています。ご期待下さい。



図書館への思い

平成22年のNHK大河ドラマは、福山雅治さん主演の「龍馬伝」に決定しています。長崎市内をはじめ県内には龍馬ゆかりの場所がたくさんあり、風頭公園に立つ龍馬像や龍馬が日本で初めて組織した商社「亀山社中」跡、龍馬が勝海舟とともに訪れた立山奉行所跡など数多い。本館に龍馬関係の蔵書がどのくらいあるか、ホームページの蔵書検索を利用して「龍馬」と付いたタイトルで検索してみると、319冊がヒットしました。その一部を今、4階郷土資料閲覧室に「龍馬コーナー」として展示しています。この機会に、坂本龍馬に関する本を手に取り、龍馬ゆかりの地を散策することも興味深いのではないのでしょうか。またそのことによって大河ドラマへの期待が膨らみ、ふるさと長崎の新たな良さを見出す契機となれば幸いです。

読書は、ぼんやりと過ごすのと違い、忍耐力が必要です。本はどんな本でも論理の筋が通っていないと本にはなりません。文字だけを読んで、書かれている内容を自在に想像できないと、その内容は理解できません。そういう意味で、読書は論理的思考力、想像力そして忍耐力を自然に培っていると思います。そういう

力は子どもたちだけでなく、大人にとっても、ますます複雑化する社会を生き抜くために必要です。そのために、図書館は知的自立を促し、知的要求に応えるための情報を提供する場所であるとともに、読書をする意欲をかき立て、行けばほっとする、居心地がよくて何かしら自分を高めてくれるものがある、と利用者が感じるような場所でないといけないと思います。

一方、県内図書館のキーステーションとしての県立長崎図書館の大きな役割として、県内の図書館、大学図書館及び他県の図書館等とネットワーク化を図り、学校教育支援や子育て支援など地域の課題解決や県民のニーズに応える情報や資料を提供していく必要があります。県内には蔵書冊数が少ない図書館もあり、各図書館が地域の「知の宝庫」「文化の拠点」としての機能を発揮できるよう各図書館との連携を一層深めながら運営の充実を図らなければならないと考えています。



廣田 勲 館長

■ 県内図書館職員からのご意見紹介

市町立図書館から見る県立長崎図書館

■ 小値賀町立図書館職員 津田朋子さん

小値賀町立図書館は、今年4月1日に旧幼稚園園舎跡に移転しました。移転決定から再開館までの準備期間があまりない中で、「より良い図書館をどうしたら作ることができるのだろうか…」と一人苦慮していましたが、『困った時の県立図書館頼み!!』ということで、設計の段階から色々と相談にのっていただきました。年度末の忙しい時期にも関わらず、二度も来町していただいたうえ、書架の配置、配架、棚作り、コーナー作りなど、全般に亘り手伝っていただいたおかげで、なんとか開館日に間に合わせる事ができました。本当に助かりました。感謝しております。

今回の移転を通じて、県立図書館の在り方について改めて考えさせられました。常々『困ったときの県立図書館』との思いはありますが、移転に関しては、個人的に相談できる職員の方々がいたからこそ、お願いできた感が拭えません。その方々が異動したら…と思うと不安が残ります。個人の繋がりだけでなく、図書館としての繋がりをどう作っていくかがこれからの県立図書館には必要なのでは？と思いました。どこまで県立図書館に頼ることができるのか、又県立図書館としてどこまで支援できるのか、相互認識に差がないような体制ができることを願います。

これからも、わたしたち市町立図書館にとって頼れる存在の“県立図書館”でいてください。

■ 南島原市立口之津図書館職員 宅島麻美子さん

図書館という職場に縁があり、勤めさせていただき早10年が経ちました。多くの研修会に参加させてもらって成長してきたように思います。研修の場をお世話してくださるのは、県立図書館並びに県内図書館に勤務される諸先輩方でした。研修を通して私たちはお互いに切磋琢磨し、そして親睦を深めてきました。それが館（室）の運営や相互貸借、レファレンスなどにも反映されていると感じます。このような協力体制を築いてこられたのは、やはり県立図書館の導き細やかな心遣いがあったからだと思っています。月に2回の県立図書館巡回の折は、運転手の方や奉仕課の職員の方々が、館（室）のことや私たち職員のことをいつも気にかけてくださいます。県立図書館の方が潤滑油となってバックアップをしてくださっているので、心強いし、より一層業務励むことができます。どうぞこれからも「道標」となり「潤滑油」となり、私たちをご指導ください。

互助文庫のご案内

やりたい仕事を見つけよう！ ～働く未来の設計図を発見しませんか～

「自分に合う仕事ってなんだろう？」、「やりたい仕事は見ついているが、どのようにしたら就職できるの？」、「あの仕事はどんなことをしているの？」、「働く未来のために何を始めるべきなのか？」、「その仕事は社会に必要とされているか？」、「果たして自分に向いているか？」

このような『仕事』に関する知識や情報を得るために、図書館はさまざまな資料を提供いたします。今回新たに、長崎県教職員互助組合寄贈の「互助文庫」として、就職や資格取得のための参考書約800冊を集めたコーナーを設置します。（10月から貸出等を開始する予定です。）

興味ある仕事に必要な能力を向上させるための国家資格や民間資格などを学ぶための本や検定に関する資料もたくさんあります。就職のための勉強法や

資格取得を紹介した本も含め、100種類以上の仕事についての本を取り揃えています。

進路指導や就職活動に留まらず、自己啓発のきっかけ作りや生涯学習の充実のために、ぜひご利用下さい。今までと違った自分、気づかなかった自分に出会えるかもしれません。



催し物のご案内

第3回 県立長崎図書館講座

日時 平成21年11月28日(土) 13:30～15:30

場所 県立長崎図書館2階講堂

内容 対談「長崎の短歌を語る～斎藤茂吉・中村三郎・竹山広を中心に～」

講師 田中 俊廣 氏(活水女子大学教授)

久保美洋子 氏(歌人)

県立長崎図書館こども大会

日時 平成21年12月12日(土) 13:30～15:30

場所 県立長崎図書館2階講堂

内容 人形劇、おはなし会

平成21年度「長崎ゆかりの文学展」

日時 県立長崎図書館4階郷土資料展示室

場所 9:30～17:00(ただし休館日を除く)

内容 「長崎と古典文学～万葉集から去来まで～」

(平成21年9月19日～12月27日)

「収蔵品展」※詳細は未定

(平成22年1月23日～4月11日)



編集・発行 長崎県立長崎図書館 長崎市立山1丁目1番51号

ISSN 1344-5235 ホームページアドレス <http://www.lib.pref.nagasaki.jp>

270 この広報誌は、環境に配慮した再生紙を使用しています。